



### 1. 第6回 BA 運営委員会の開催

12月4日に第6回 BA 運営委員会がイタリアのパドヴァの“Scuola della Carità (慈愛の同信会)”にて開催された(図1参照)。今回の委員会では、欧州側は、議長となったペレス＝サインツ欧州委員会研究総局エネルギー局J1ユニット長以下、委員4名と専門家5名、日本側は箱崎文部科学省大臣官房審議官以下、委員4名と専門家6名、これと各事業長及び事業委員会の代表6名が参加した。本会合では、3事業のための主要機器の製作と建設活動を含む3事業の2010年作業計画を承認した。また、この運営委員会に併せて、サテライトトカマク事業のためにEUが物納する機器の調達取り決めが、日欧の実施機関間で調印された。IFMIF/EVEDA 事業チームの構成員の充実や六ヶ所における建屋建設が予定通り進められていることが報告されたほか、青森県及び六ヶ所村により提供されている生活支援及び教育支援に対して、あらためて感謝の意が表明された。次回の運営委員会は、2010年4月28日に日本(六ヶ所村)で開催の予定である。

### 2. IFMIF/EVEDA Li 試験ループの建設工事開始

IFMIF/EVEDA Li 試験ループの建設工事が原子力機構大洗研究開発センターで11月2日から始まり、ループ架台

設置のための基礎掘返しを開始した(図2)。12月から杭打ちが開始され、来年3月にループ架台の現地工事完了予定。このLi試験ループ施設は国際核融合材料照射施設の工学実証・工学設計活動(IFMIF/EVEDA)の重要な3つの実証試験の1つと位置付けられている。IFMIF実機と流体的に同等な、毎秒20mの高速リチウム流を発生させて流れの安定性とループ全体の長時間の安全・健全運転を実証することを目的としており、リチウムループとしては世界最大である。欧州からはこのループに取り付けるための背面壁(液体リチウム流路で最も中性子束が高くなる部分)が持ち込まれる計画である。

### 3. 六ヶ所サイトでは各施設がほぼ完成

六ヶ所村は12月初旬までは積雪ゼロの状態であったが、12月中旬から1月にかけてかなりの降雪があった。現在の積雪の状態は、この時期には珍しく時折雨も降ったためそれほどでもない。六ヶ所サイトで建設中の各研究施設では、建築工事は概ね終了し、各棟への電力の供給も始まった。電気設備の据付調整は最終段階となり、空調設備の試運転等も進められ、3月半ばの竣工へ向けて予定通り建設工事が進んでいる。

(日本原子力研究開発機構核融合研究開発部門)



図1 第6回幅広いアプローチ運営委員会  
(平成21年12月4日、イタリアのパドヴァの“Scuola della Carità”にて)



図2 IFMIF/EVEDA のLi試験ループ現地工事  
(平成21年11月10日、原子力機構大洗研究開発センター)